

青春の祭りは終わった！そして激動の波がおしよせる！

月おなじみのオールデイズ・ヒット・ナンバー全48曲！

- ムーン・リバー
- ミスター・ロンリー
- サウンド・オブ・サイレンス
- ミスター・タンブリン・マン
- バイプライン・他

キャンディ・クラーク ◆ ポー・ホフキンス ◆ ロン・ハワード ◆ ボール・ル・マット
 マッケンジー・フィリップス ◆ チャールズ・マーティン・スミス ◆ シンディ・ウイリアムズ ◆ DJ / ウルマン・ジャック



アメリカン グラフィティ 2

<カラー作品>



へボスト・エルヴィス・エージン
への熱いメッセージノ
全48曲オールディーズ・ヒット。
月サウンド・オブ・サイレンス ⑥5
サイモンとガーファンクル
月ムーン・リバー ⑥1
アンディ・ウィリアムズ
月ミスター・タンブリン・マン ⑥5
ベース
月ミスター・ロンリー ⑥4
ホビー・ウイントン
月ハイブライン ⑥3
シャンティーズ
月悲しき戦場、グリーン・ベレーの
バラード ⑥6
月ライク・ア・ローリング・ストーン ⑥5
ボブ・ディラン
月魔女の季節 ⑥7
月リスバクト ⑥7
アレサ・フランクリン
etc.....

祭りは 終わった

THE PARTY'S OVER

62年の夏の一夜、カリフォルニアの大都市でクルマと女の子とロックに若さを燃焼していた若者たち——彼らの青春を生き生きと、しかしノスタルジックに描いた「アメリカン・グラフィティ」=74年公開—は、あらゆる予想を超えたスーパー・ヒットを記録して、バラエティ紙によるアメリカ映画史上配収ベスト作品の10位前後にランクされる作品となった。

アメリカの社会を振り返ってみると、1962年は実質的に1950年代をしめくくった最後の年だといわれている。この年を境に、アメリカはベトナム戦争、反戦運動、麻薬、ヒッピー、女性解放運動、学園闘争など、数々の社会問題が渦巻く激動の60年代に突入した。

純真に平和に夏の夜を謳歌していたあの「アメリカン・グラフィティ」の若者たちも、いやおうなく時代の激流にのみこまれ60年代の混乱を生きぬかなければならなくなった。20才代を迎えた彼らをその行く手で待ち受けていたものは……。

ある者はベトナムへ、ある者は反戦運動へ、ある者はヒッピー生活へ、彼らは別々の道を歩み始めた。前作の登場人物それぞれの後日話を語るだけではなく、彼らの歩みを通して60年代のアメリカ社会を立体的に描こうとしたのがこのユニークな「アメリカン・グラフィティ2」なのです。



こんなスマートな映画手法はかつて無かった。

- 64年の大みそか—ジョン（ポール・ル・マット）はドラッグ・レースのスター。
- 65年の大みそか—テリー（C・マーティン・スミス）はベトナムのジャングルにいる。
- 66年の大みそか—デビー（キャンディ・クラーク）はマリファナとロックが渦巻く世界に。
- 67年の大みそか—結婚したローリー（シンティ・ウィリアムズ）とスティープ（ロン・ハワード）は双児の両親。

この4年の大みそかが交錯して描かれる。これだけなら別にどうという事はない。ユニークなのは年度毎に映像が当時流行したスタイルに分けられている。64年はシネ・スコで、65年は16ミリ・ドキュメンタリー風、66年はサイケなスプリット・スクリーン、67年はスタンダード・サイズでTVのCM風というように。更に映像を異にするこれら4つのエピソードは60年代のヒット曲に合わせて一曲ごとに互いに交錯するように工夫されている。つまり4つのエピソードの中に48曲が各2分づつ12の場面に分割され、映画全体としては4エピソード×12場面、即ち48に分割された場面から成立しているのです。上映時間でいうならば、一場面が約2分として全体で約96分。それにオープニングとエンディングをつけ加えて頂度2時間になるわけです。

スタッフ

製作総指揮……ジョージ・ルーカス
製作……ハワード・カザンジャン
監督……B・W・L・ノートン
脚色……B・W・L・ノートン
撮影……カレブ・デシャネル

キャスト

デビー・ダンハム……キャンディ・クラーク
リトル・ジョー……ボブ・ホプキンス
スティープ・ボランダー……ロン・ハワード
ジョン・ミルナー……ポール・ル・マット
レインボーことキャロル……マッケンジー・フィリップス
テリー・フィールズ……チャールズ・マーティン・スミス
ローリー・ボランダー……シンティ・ウィリアムズ

東京音協5月例会

特別鑑賞券発売中！
会員に限り880円
(一般1,300円・大学1,200円・中高生1,100円の処)
TEL(201)8111

丸の内松竹
(201) 3720

新宿京王地下
(356) 3518

渋谷東急名画座
(407) 7229